

Social medical corporation hokuto

★広報誌★

ほくと7

seven

76
VOL.

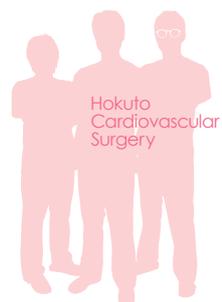
6月号

<http://www.hokuto7.or.jp>



[特集] 心臓血管外科

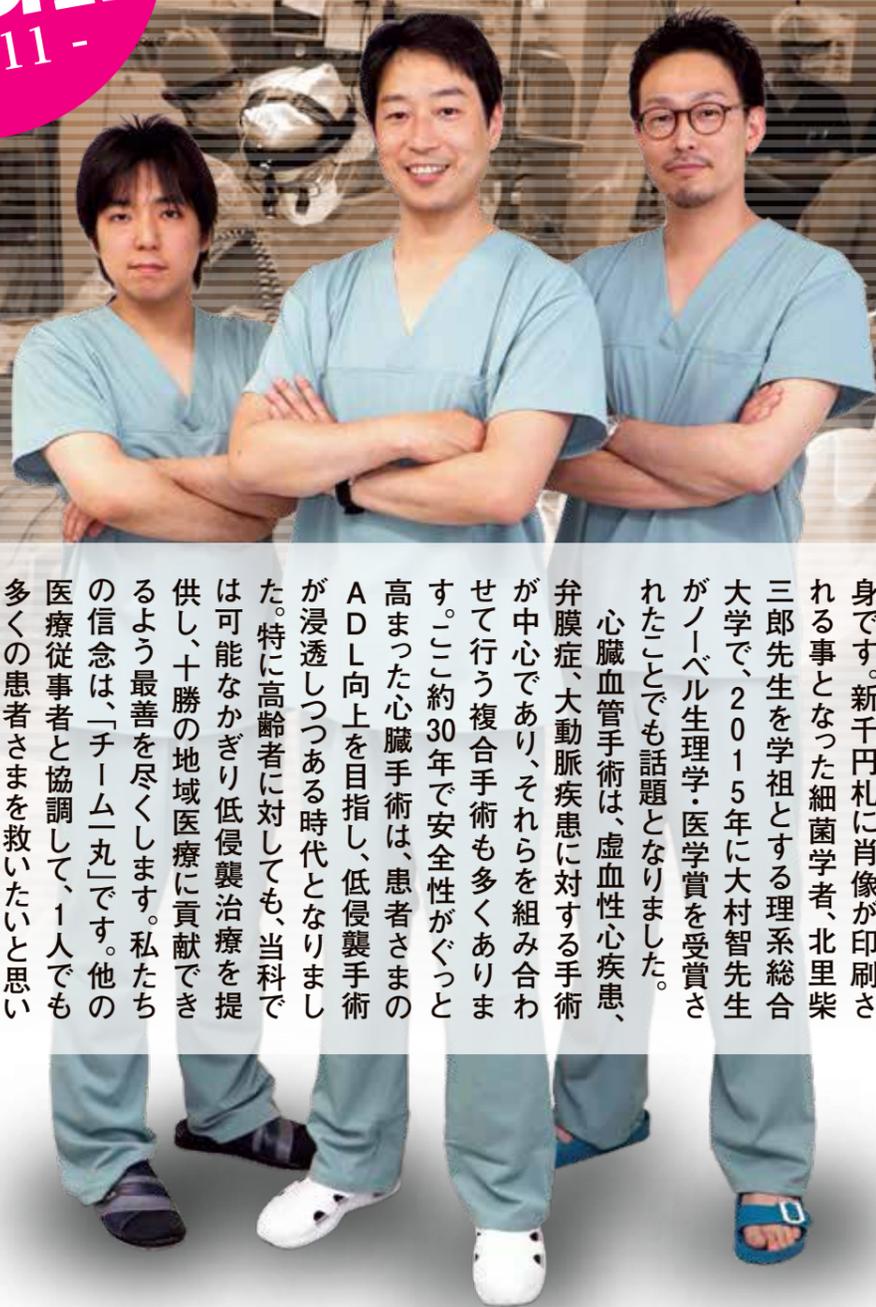
CABG (冠動脈バイパス術) の様子
左から大友医師、井上医師、福西医師





診療科紹介

心臓血管外科



当院の心臓血管外科は、令和元年より新チームとなりました。私たちは3人とも北里大学の出身です。新千円札に肖像が印刷される事となった細菌学者、北里柴三郎先生を学祖とする理系総合大学で、2015年に大村智先生がノーベル生理学・医学賞を受賞されたことでも話題となりました。心臓血管手術は、虚血性心疾患、弁膜症、大動脈疾患に対する手術が中心であり、それらを組み合わせることで、より安全な手術が行えます。約30年で安全性がぐっと高まった心臓手術は、患者さまのADL向上を目指し、低侵襲手術が浸透しつつある時代となりました。特に高齢者に対しても、当科では可能なかぎり低侵襲治療を提供し、十勝の地域医療に貢献できるような最善を尽くします。私たちの信念は、「チーム一丸」です。他の医療従事者と協調して、1人でも多くの患者さまを救いたいと思います。今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

(北斗病院 心臓血管外科副部長 福西 琢真)

医療機関の皆さまへ

北斗病院では地域医療連携推進課経由でのご紹介患者さまを受け付けております。詳しくは患者サポートセンター(下記番号)までお問い合わせください。

電話 0155-47-3093

園芸療法12ヵ月 10



十勝自立支援センター 園芸療法士
介護老人保健施設 かけはし 劔持 卓也
植物のある環境や植物を育てることを用いて、対象となる方々の心身機能維持、回復に取り組む。日本園芸療法学会認定・専門認定登録園芸療法士。
老健かけはしBlog(ブログ)
園芸療法の取り組みやかけはしのイベント情報等、随時更新。ぜひご覧ください。



6月「雨を待つ」

先月は記録的な暑さと少雨に驚かされました。38.7℃という気温は、5月中に観測したのものとして全国でも過去最高レベルだそうです。この時は30℃を超える日が3日も続き、急に暑くなったため、身体が追いつきませんでした。それにしても雨が降らず、極度の乾燥状態が続いており、農家の方々にとっては死活問題となっています。かけはしでは、水栓を使って水やりをしましたが、水をまいてもすぐに乾燥してしまうので、少しでも早く雨が降らないものかと気を揉みました。ここは砂漠かというくらい、乾いた土が風に飛ばされて空が濁るほどでしたので、農家の皆さんの心配を思うと憂慮に堪えません。去年は6月の終わりから7月にかけて雨が続きましたが、今年はどうなるのでしょうか。適度に降って、適度に晴れてもらいたいです。

さて、かけはしのテラスに設置されている植栽スペースには、着々と野菜や花の苗が植えられています。毎回20名ほどの方が参加されるグループでの園芸療法プログラムにて、作業を進めています。風で土が飛ばされて、植えたジャガイモが顔を出したりしたこともあります。何とか順調に育っています。一番はじめに収穫できるのは何でしょうか。今月は平均気温の上昇と共に、花も野菜もぐんと大きく育つので、期待も膨らみます。

専門家が教える
第11回
健康レシピ
ロカボ食

生地は一晚寝かせると、もっちりとした食感に!

そば粉のガレット

具 ● ぶなしめじ 10g
材 ● 温泉卵 50g
● ミニトマト 15g
● チーズ 18g
● 粗びき胡椒 少々
● オリーブ油 2g

具 ● そば粉 30g
材 ● 牛乳 20cc
● 水 50cc
● 塩 少々
● アスパラ 15g
● ベーコン 10g

作り方
① そば粉に水・牛乳・塩を加え、混ぜ合わせる。
② ベーコンとアスパラは食べやすい大きさに切り、炒めて塩・胡椒で味付け。
③ フライパンに油をしき、温まったら①の生地をお玉1杯分流し入れ、うすく広げる。
④ 表面が少しふくらみ、乾いてきたら②の材料と温泉卵、チーズ、カットしたミニトマトをのせ、蓋をして中火で2~3分ほど焼き上げる。
⑤ 蓋を開けて、火加減を調節し、生地の水分を飛ばし、フライ返しで端を折りたたみ、粗挽き胡椒をかけてお皿に盛り付ける。

栄養価

エネルギー	335KCal
たんぱく質	17g
脂質	18.4g
塩分	1.0g
糖質	22.3g
炭水化物	24.5g
食物繊維	2.2g

糖質=炭水化物-食物繊維

栄養科
管理栄養士
梅木美奈子



新たに2名の医師が着任し、5月から新体制でスタートした心臓血管外科。大学病院で培った治療技術を十勝でも展開していきます!



心臓血管外科
部長

井上 信幸



心臓血管外科
副部長

福西 琢真



心臓血管外科
人工透析科医長

大友 勇樹

—北斗病院の心臓血管外科では、どのような疾患に対して治療されているのですか?

私たち心臓血管外科では、冠動脈の手術、心臓弁の手術、大動脈の手術を治療の主な3本柱としています。

①冠動脈の手術

まず、狭心症や心筋梗塞などの冠動脈の病気「虚血性心疾患」に対しては、病変の先に自身の新しい血管で血流を補う「冠動脈バイパス術」を行っています。

②心臓弁の手術

次に、心臓の各部屋の出口にある一方弁が変形して、機能を十分に果たせなくなってしまう病気「心臓弁膜症」に対しては弁を作り直したり、取り換えたりする「弁形成術」や「弁置換術」を行っています。

③大動脈の手術

もうひとつは、胸部や腹部の大動脈が膨らんで、破裂すると致命的になる病気「大動脈瘤」に対する治療で、「人工血管置換術」を行っています。侵襲の少ない「ステントグラフト内挿術」というカテーテル治療もあります。

他に不整脈の治療として、徐脈には「ペースメーカー植込み術」、突然死の原因となる致死性不整脈には「除細動器付きペースメーカー植込み術(ICD)」を、前述の3本柱の手術中に同時に不整脈を治す「メイズ手術」も積極的に行っています。

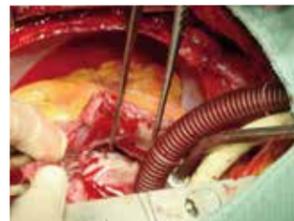
また手足の血管に対するさまざまな疾患も私たちの治療の範囲です。例えば、透析の為の「シャント造設

術」、下肢の静脈瘤に対する「レーザー治療」、足の血管が狭くなることで血流が減り、痛みを生じる下肢閉塞性動脈硬化症に対しては、循環器内科での「カテーテル治療」と人工血管や自身の血管を使った「バイパス手術」を患者さんの状態により選択しています。

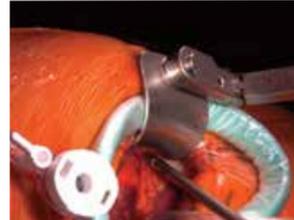
—先生方は海外留学で最新医療を学んでこられました。心臓疾患の治療はかなり進歩してきているのですか?

30年前は、心臓外科の手術は治療成績も悪く、残念ながら現在の数倍多くの患者さんが亡くなっていました。しかしそこからは目覚ましい発展を遂げ、手術の治療成績は格段に向上し、多くの新しい機器が海外から導入されました。また身体への負担の少ない低侵襲手術が飛躍的に進歩してきました。例えば、心臓弁膜症に対しての治療の一つで、6～8cm程度右胸を切開して、肋骨の間から僧帽弁を形成する「MICS(ミックス)」とい

〈通常の心臓手術〉



〈低侵襲心臓手術とその創部〉



う低侵襲心臓手術の方法があります。従来は胸の真ん中の胸骨という骨を切っていましたが、MICS手術では身体に負担が少なく早期に退院ができます。また人工弁に取り換える弁置換術が一般的でしたが、私たちは自身の弁を利用する弁形成術を第一選択としています。北里大学病院で実施してきた低侵襲治療を北斗病院でも取り入れる予定です。みなさんは心臓手術と言うと、怖いイメージや長期入院が必要と思われるかもしれませんが、最近は低侵襲手術を積極的に取り入れる事により、入院経過も変わってきています。実際に手術翌日から食事を始め、リハビリを開始し、10日～2週間程度で退院の目途が立つようになっていきます。手術を躊躇されている患者さんがいましたら、一度担当医師に相談してみてください。

—先生3人は、北里大学病院の心臓血管外科で一緒に働いたとお聞きしましたが?

はい、私たち3人は以前同じ病院で一緒に働いていました。心臓血管外科はチームプレイが非常に大事で、手術や術後経過がスムーズに進むためには、メンバーが同じ方向を向いて治療に臨む必要があります。井上、福西の2人はまだ着任して間もないですが、一緒に働いてきたメンバーですので、その点安心して治療を受けてもらえると思います。

心臓血管外科は役割分担がしっかりしていると思います。部長の井上は患者さんが安心して手術を受けられるよう説明し、責任者として手術を担い、2番手の福西が手術と術後全体をマネジメントし、3番手の大友は他部門の医療者と連携をとりながらサポートする。それぞれが大事な役割を持って治療に取り組んでいます。なぜ「チーム」を強調するかというと、患者さんの治療は手術だけが大事ではないからです。手術前に循環器内科医の正確な診断があり、入院中は病棟の看護師が細部にまでケアを施し、手術室では麻酔科医、臨床工学士、手術部看護師と心臓血管外科医が手を取り合っており、術後はICUチーム、他科医師、そしてリハビリスタッフ、栄養士、ソーシャルワーカーが退院までのサポートをする。こうしたすべての部門が一丸となることで理想的な治療が実現できるのです。

—すると手術前後の他部門との連携は大事ですね

必ず手術前後にカンファレンスを開き、関係部門と患者さんの情報を共有しています。心臓疾患は70代、80代の高齢者に多いので、退院後にも自宅で元気に過ごせることが大切です。リハビリ施設とスタッフの充実した北斗病院では、その点もしっかりサポートができます。また他の医療機関から紹介された方は、手術後の経過が落ち着き次第、元の先生に診察してもらえるよう連携を図っています。

—最後に先生たちの今後の抱負をお聞かせください

〈大友先生〉 私は昨年より北斗病院で診療していました。この地域の方々には温かいハートをお持ちです。しかし私の印象では、美味しい食べ物のせいか、臓器としてのハートに病気を抱えている方も少なくありません。私はこれまで多くの手術助手をしてきましたので、今後2人の先生が推進する最新治療を支えていく自信があります。3人で地域の方のハートの病気を治していきたいと思います。

〈福西先生〉 私は留学先で心臓手術研究の礎を学んできました。心臓手術が当たり前になっただけで、先人たちが細胞レベルで研究して発見した技術です。現在はインターネットで多くの情報が入手できる時代で地域格差はありません。都会の大病院でなくても当たり前で最新治療が受けられることを知ってもらい、低侵襲手術を基盤とした質の高い医療を提供して、元気に活躍できる方を増やしていきたいと考えています。

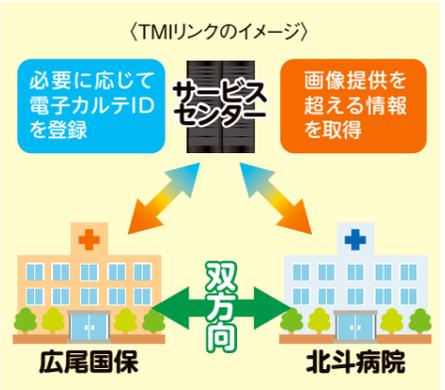
〈井上先生〉 2年間のドイツ留学では、日本で使われている手術機器や医学用語の多くがドイツ語であったことから、言語が十分にない時期でも幸い次に何をすべきかが自然と判断でき、日本では経験できない数の手術に携わることができました。この留学経験と長く在籍した大学病院での経験をいかして、一人でも多くの心臓病で苦しんでいる患者さんを治療し、地域の元気に貢献できることを目指していきます。

最後に私たちの大切にしているテーマは「チーム医療」です。人と人とのつながりが最も重要と考えています。心臓血管外科の治療技術と病院を支えるスタッフとのコミュニケーションを大事にし、一丸となって治療に取り組んでいきます。

TM-Linkの運用とその有用性

地方独立行政法人 広尾町国民健康保険病院 院長 計良 基治

4月から地方独立行政法人広尾町国民健康保険病院(以下、広尾国保病院)と社会医療法人北斗病院(以下、北斗病院)間で診療情報連携システム「TM-Link」を使用した「TM-Link」(Tokachi Medical Information Link)の運用が始まりました。



れない検査・処方・画像の詳細な情報提供が可能であり、通常使用の電子カルテと連携することだけで、新たな情報機器への入力は必要とせず、医療現場へ負担をかけずに情報公開が可能になることです。情報公開側の有用性としては、公開側の電子カルテ情報が随時閲覧できることから、診療情報提供書やCD-Rでの画像提供を超える情報共有が可能になります。

症例は76歳男性。ふらつきがあり、その後呂律が回らず広尾国保病院に救急搬送。搬送時には麻痺もなく、CTにて異常所見は認めないものから臨床所見からTIA(一過性脳虚血)と診断。入院後に右上下肢筋力低下の進行を認めため進行性脳梗塞の疑いで北斗病院に救急搬送。MRIを追加することによりBAD(分枝粥腫型梗塞)の診断。広尾国保病院でも同日中に、TM-LinkによりMRI画像等を確認することが可能。その後の経過もTM-Link



ID・Linkは、各医療施設内の専用サーバに格納された診療情報をサービスセンターを経由して閲覧する仕組みです。一方で、このシステムはすべての患者さまの診療情報が自動的に共有されるものではなく、必要に応じて電子カルテIDを登録することにより情報共有が可能になるシステムでもあります。情報公開側の有用性としては、診療情報提供書だけでは伝え

TM-Linkの運用例

- 76歳男性救急搬送
- CTにて異常所見なし 臨床所見からTIAと診断
- 入院後に右上下肢筋力低下の進行を認め 進行性脳梗塞の疑い
- 北斗病院へ救急搬送
- MRI検査でBAD(分枝粥腫型梗塞)の診断
- TM-Linkにより同日 広尾でもMRI画像等を確認
- その後の北斗での経過も TM-Linkで随時閲覧可能
- 転院した際の 途切れない治療の実現

ンクにて随時閲覧可能であり、再度広尾国保病院に転院した際の途切れない治療にもつながります。

以上のように、「TM-Link」による広尾国保病院―北斗病院間の双方向の情報連携により、効率的でより安心・安全な医療提供が可能です。なお、診療情報の参照のみであれば、ネットワーク参加(無償)のみで可能なことから、今後は他の医療機関との連携に発展させることも可能なシステムです。

イメージ学超入門〜坂本先生御講演〜

精密医療センターセンター長 嶋原 良仁

今回はドイツのフランクフルトにある、マックス・プランク経験美学研究所で研究者をしている坂本泰宏先生にお越しいただき、「イメージ学超入門―芸術と科学:失われた「ドイツ性」を巡る小旅行」と題して、御講演いただきました。



坂本先生は、現在に至るまで10年以上に渡り、ドイツを中心に研究者としてお仕事をされています。実際にドイツで「生きています」坂本先生の目を通して、ドイツの「イメージ」についてのお話は、私たちがちょっととした小旅行に連れ出してくれるものでした。

前半は「ドイツらしさとは何か」というお話。歴史的に国境が頻りに変わるヨーロッパにおいて、今私たちが知っているドイツの形になったのは、比較的最

近の話です。その後も、ナチスドイツ時代、東西ドイツ時代、そして現在の統一ドイツと、国の体制が少なくとも三回大きく変わりました。そのため「一言では説明できないことが、ドイツらしさ」。多様な「ドイツらしさ」の一つが「移民に寛容」であること。ドイツは移民、異文化の受け入れに積極的な国です。坂本先生がお勤めのマックス・プランク研究所は、職員の半数がドイツ人以外の人々。これは、第二次世界大戦と、その前後の時期に、優秀な人材が国外に流出し、国が衰えてしまったという反省の上

に立ち、「今度は国外から優秀な人や文化を取り入れて、国に力をつけよう」という考えに基づいているというお話でした。しかも、「今すぐに役に立つかどうか」ではなく、「10年、100年経った時に役立つかもしれない」という視点に立ち、幅広く「異なったものを受け入れる」視野の広さがあるようです。

後半は、そのような文化的背景から生まれた学問体系のひとつであり、先生の御専門でもある「イメージ学」とは何かというお話。私たちの生活は、普段多く

の部分で、言葉に頼っています。しかし同時に「言葉にすると嘘になる」「言葉では表しきれない」などと、「それ以外の何か」を感じているのもまた事実。つい絵文字やスタンプをメールに使うのも、「文字だけで伝えられない何か」を感じているからなのかもしれません。

NHKの教育番組「ピタゴラスイッチ」の作成に携わったり、フェルメールを例に同じアトリエで描かれた複数の絵画からその建築をCGで再現したり、クラシック音楽の楽譜とポップミュージックの共通点を分析したり。一見してバラバラのようですが、共通しているのは「言葉ではうまく表現できないけれど、私たちが感じている背後にある構造」を抽出して操作することで「言葉にならない何か(イメージ)」を明らかにすること。「それって何の役に立つの」は恐らく愚問。今は役に立たないかもしれない。だけど10年後、100年後には、ひょっとしたら役に立つかもしれない。そんな「遠い未来の異文化」の研究をも受け入れるのが、またドイツらしさの一部なのかもしれません。



★ 北斗福祉村プロジェクト ★

北斗福祉村ガーデン(仮)

われわれ北斗は十勝リハビリテーションセンター、サービス付高齢者向け住宅「あやとり」、介護老人保健施設 かけはしを中心に、医療・介護の新たなモデルとして〈福祉村〉を展開しています。地域の皆さまにとって新たなコミュニティの創造と、健康寿命の延伸を図れるような場所として新たに〈北斗福祉村ガーデン(仮)〉の造成に着手しました。庭は時間をかけて育まれます。〈福祉村〉のゆっくりと成長していく姿を紹介してまいります。



2019年
8月
完成予定

工事期間中は
ご迷惑をおかけいたしますが
ご理解・ご協力を
よろしく願いたします

お気軽にお問い合わせください

すべてのお問い合わせ ☎0155-48-8000〈北斗コールセンター〉



社会医療法人 北斗

北斗病院



■ 関連施設

- 北斗病院 (帯広市)
- 北斗クリニック (帯広市)
- 十勝リハビリテーションセンター (帯広市)
- サービス付き高齢者向け住宅「あやとり」 (帯広市)
- 十勝自立支援センター介護老人保健施設「かけはし」 (帯広市)

- ほくと自立支援ホーム/あおぞらクリニック (帯広市)
- 上士幌クリニック/介護老人保健施設かみしほろ (上士幌町)
- 新得クリニック (新得町)
- 熊谷総合病院 (埼玉県熊谷市)
- HOKUTO画像診断センター (ロシア・ウラジオストク)
- HOKUTOリハビリテーションセンター (ロシア・ウラジオストク)

2019年6月15日発行

発行: 社会医療法人 北斗
発行人: 鎌田 一

責任者: 久保田 亨
編集長: 伊藤 慎

〒080-0833 帯広市稲田町基線7番地5
☎0155-48-8000 FAX0155-49-2121